

令和3年度 第2回東京都相談支援従事者研修検討会 議事録【要旨】

日時 令和3年8月13日（金曜日） 10時から12時まで

（新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止する観点から、WEB上での意見交換による開催）

出席者 佐藤委員、蛭川委員、堤委員、杉田委員、池田委員、中島委員、花形委員、藤井委員、
藤田委員、吉澤委員、北川委員

事務局 東京都心身障害者福祉センター地域支援課長森下 他2名

1 開会

事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・資料確認 次第 資料1 令和3年度相談支援従事者専門コース別研修 企画案 資料2 受講希望者への合理的配慮について 参考資料 令和3年度相談支援従事者指導者養成研修実施要綱及びプログラム ・記録のための録音についてご了解いただきたい。 ・新型コロナウイルス感染症の感染防止のためWEB会議での実施となった。意見があるときは挙手等で知らせていただきたい。
-----	---

2 検討事項

(1) 各研修の実施状況報告

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修の実施状況の報告に入る前に、現任研修が集合型からオンラインの形式に変更になっている状況について、事務局から報告をお願いしたい。
地域支援課長	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の急速な感染拡大を受け、感染拡大防止の観点から、急遽8月以降の日程は、集合型での演習を中止し、オンラインでの実施に変更させていただいた。研修途中の変更となり、ファシリテーターの皆様には大きなご負担をかけることとなったこと、限られた時間の中で事務局から様々なお願いに迅速に対応していただきましたことに、重ねてお礼を申し上げたい。この後も、各種研修が続くが、現下の感染拡大状況から、集合形での実施が難しいと考えている。研修途中での実施方法の変更は負担が大きいため、極力途中での実施方法の変更は避けたい。皆様からのご意見を頂戴しながら研修が確実に実施できるように進めてまいりたい。引き続きご協力をお願いしたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・では、現任研修から報告をお願いしたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、8月16日から実施方法がオンラインに切り替わった。 ・8月12日に教室担当のファシリテーターを対象に、他の方は傍聴という形で、オンラインに関しての説明会を実施した。説明会では、Microsoft Teamsに関して使いにくさや、順調に研修が進むかという不安が上がっていたが、工夫について意見を出し合い、前向きにやっていくしかないと捉えていただいた印象はある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の前半が終わったところだが、現場を経験していない、相談支援専門員ではない受講者にとっては、新しいカリキュラムによる講義や演習の内容の難しさ、ファシリテーターの関わりを気持ち的に後ろ向きに捉えてしまうことがあると感じた。
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者研チームは、昨年度、新カリキュラムをコロナバージョンの集合型で実施した。昨年度を振り返って修正するところまでは終わっている。本当は来年度以降の通常バージョンのつくり込みをしていくところだったが、現任研修がオンラインに切り替わり、初任者研修も今年度オンラインでどうできるかを考えなくてはならないというところで止まっている。 ・実施方法を途中で変更しないために、どの選択肢でいくのかをはっきりさせた後、完全オンラインであればその進め方とスライドづくりに入る。 ・8月中に今年度の実施に向けた全部のものが揃う状況で、演習指導者養成研修チームにつないでいくところだったが、足踏み状態。 ・コロナバージョンの集合型は対話が難しかったので、オンラインで実施するのであれば従来のバージョンを対話をしながらできる。それを活かしてつくり込んでいけたらと思っている。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・演習指導者養成研修について、8月11日に事務局と打ち合わせを行った。10月に実施予定だが、初任者研修がオンラインになるだろうという宙ぶらりんな状況のため、演習指導者養成研修の資料づくりも、初任者研修のファシリテーター説明会にあたる部分も、初任者研修検討チームでの検討状況を見ながら作っていくことを考えている。 ・内容については、1日目は東京都の相談支援の歴史とファシリテーターの基礎的な技術になる。都の歴史は大事なものなので残していきたい。ファシリテーターの技術はMicrosoft Teamsを使った演習になるのであれば、ファシリテーター向けのMicrosoft Teamsの操作方法、グループワークの行い方、資料の上げ方などを取り入れたいと考えている。ファシリテーションの技術に関してもオンラインでのポイントを考え直さないといけない。 ・2日目はファシリテーター説明会だが、初任者研修の演習次第なので、初任者研修の構成に合わせて9月ギリギリまで考えたい。 ・3日目は全ての演習が終わっての振り返りになるが、昨年もオンラインで行なってあまり支障はなく意義があったので、昨年度同様、オンラインでファシリテーターポイントのおさらいとファシリテーターを担っての振り返りという構成を考えている。 ・募集時の案内では1日目は9時半から5時になっていたが、終日オンラインだと疲れてしまうので、午後半日等の時間短縮について検討している。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・主任研修は、基盤となる企画の話が始まった状況。本日8月13日の夕方、主任研修検討チームの打合せを設けており、企画を確立させていきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・全体のスケジュールとしては、企画を今日固め、9月に講師を選び、決まった時点で資料づくりをスタートさせたい。 ・10月には事前課題等を完成させ、受講者の募集が始められることを見込んでいる。 ・国のシラバスがあるので内容は大きく変えようがないが、東京都は他の自治体と違い圧倒的に人数が多く、さらに、国の主任研修のモデルはいわゆる第三層、具体的には、基幹相談支援センターで活躍する主任相談支援専門員が想定されているのに対し、東京都は第一層、計画相談支援の相談支援専門員が受講者層の大半を占めるので、国のモデルとは違う考え方を取り入れなければならないと思っている。その辺の認識を共有し、第一層の相談支援専門員の立ち回りについて具体的に考えていく機会を設けなければならないという話し合いをした。モデルがないので、シンポジウム等を設けて、すでに第一層で活躍している主任相談支援専門員に自身の実践を伝えてもらうことで第一層の主任相談支援専門員のあり方を考えていく場が作れないかと考えている。 ・オンラインのことはまだ考えてないが、例えば運営管理のように講義中心だった科目もワークショップを多く取り入れより参加型に変えていくこと、主任研修と現任研修とのつながりという点では、相談支援専門員像を常に確認していくことはもちろん、新たに始まった実地の研修（実習）をどう活かしていくかということの内容として盛り込んでいながら、連続性を作っていけるといいと考えている。 ・他にも行政の方が主任相談支援専門員の意義や存在を知らなければ、官民共同で活躍できるはずがないので、行政関係者のオブザーバー参加ができないだろうかという意見も出ていた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・各研修、オンラインへの移行も含めての検討ということで、かなり悩ましいと思う。 ・お互いの研修内容について掘り下げたいところ等あれば、質問をお願いしたい。 ・現任研修検討チームから、ファシリテーターが悩ましく思う場面があるとの話題があったが、具体的にお聞かせいただきたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターで1回、教室担当で4回入ったの個人的な印象になるが、現任研修のファシリテーターは、事前の研修はなく、説明会だけで入っていただいている。 ・今までは現任研修のファシリテーターは初任者研修のファシリテーターよりもう一段階を経験がある方に入っていたが、今年度は、昨年度中止になった分の受講者が追加になり、とにかくファシリテーターを集めなくてはならず、経験値を問わないで入っていただいた。 ・ファシリテーターの入り方として積極的に個別に介入をする方もいれば、遠回りで見ている方もいるが、個別に入ったときに、ファシリテーターとしてはそこまで深く言ったつもりはないけれども、指導的だったと捉えたり、強く指摘

	<p>された感じる方もいて、ファシリテーターの関わりに差があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> • また、ファシリテーターの欠席で6グループを2人のファシリテーターが担当する日があった。その日程は、ファシリテーターが中に入って一緒にグループで回すことができなくて、見回る形だったので、他の日程と比べると、個別相談支援の演習自体が違う方向になっていても修正がしづらかった。 • やはりファシリテーターが入る意味やファシリテーターの技術は、研修に反映してしまうのかなという感想がある。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> • 今後の演習指導に関わる人材を確保していく課題にも直結してくる。こういった課題が他の研修でもあろうかと思う。 • 他の委員からも、担当されている研修について一言頂戴したい。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> • 担当するJ日程から研修がオンラインに切り替わり、実はまだ当日の担当をしていない。事務局も一生懸命準備し、現任研修の検討チームも内容について修正して、何とかオンラインでやっていけそうかなと感じている。正直やってみないとわからないのと、オンラインに切り替わることで対面でのグループワークが実現できる期待を含めて、あと数日しかないが準備を進めていきたい。
堤委員	<ul style="list-style-type: none"> • 初任者研修だが、先ほどの説明にもあったが、来年度に向けて話をしようとしていたところで急にオンラインに話が進んでしまい今足踏み状態 • 初任者研修のことで一つ付け加えるとすれば、演習ノートの中に佐藤先生にもご意見をいただいて、コラムを作った。 • ノーマティブニーズを規範的ニーズと訳していることが障害のある人にとってはすごくひっかかるという発言があり、今年度前半は結構時間をかけて議論をした。 • 初任者研修の実際の演習の中では、規範的ということばを相談支援専門員が考える、推測するニーズとして運用しているが、テキストには規範的ニーズということばが残っている。演習ノートにコラムによる説明が加わったことが、今回特筆することと思う。
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> • 主任研修検討チームの1回目の会に参加できておらず、まとめたものを見せていただいた形だが、より東京都らしい主任相談支援専門員の養成へと内容的にシフトしたと思う。今日の夕方の会議ではそこにふさわしい講師の方達を選んでいきたい。 • オンラインかもしれないところでは、グループワーク、ワークショップを盛り込んで活発な意見が交換された方が、去年を見ても、地域に戻ったときに活用できると考えている。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> • 後半の議題かもしれないが、今後について考えているところがある。 • 1点目は演習指導者養成研修の次期担当に引継ぐことで、自分より年齢の若い人に声をかけさせていただいている。一緒に何年か研修づくりをさせていただく中で、次世代に引き継いで行けたらと考えているところ • 2点目はファシリテーター養成について。現在の演習指導者養成研修は新しく

	<p>初任者研修のファシリテーターをやる方の研修になっており、今のファシリテーターがファシリテートを学ぶ機会にはなっていない。演習指導者養成研修の中身を変えながら、現ファシリテーターが改めて自分のやっていることを振り返り、その上で研修のファシリテーターとして研鑽を積んでいけるようなそういう研修にしていきたいとも考えている。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ファシリテーターの課題というのは次の項目にもつながる課題。改めて一緒に検討していただきたい。 ・オンラインの課題ともあるかと思う。Microsoft Teams は大学の教員の中でも使いづらいという話が出ている。アレンジをして使わなくてはならないので、使い方や講義の仕方を大学発信でマニュアルを出している。大学のホームページの中に公開されていたりするので、参考にされたら良いかと思う。時間もある「ので次の課題に移らせていただきたい。

(2) 研修講師の養成と確保について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修講師の養成と確保は、今現在、検討会もしくは協力者として関わってくださる方達のかなりのご尽力によって成立している。それだけでは検討会や研修自体も存続していかない可能性も出てきてしまうので、継続的な展開ができるように人材確保の話をした方が良いのという経過が昨年度末にあり、今年度新たな検討事項として研修講師の養成と確保が課題になった。 ・先週、各研修のリーダーである副委員長の皆様と私と事務局で率直に色々な課題について話す機会を設けたので、私の方から簡単にご報告させていただきたい。 ・今までは新しいプログラムを作っていくことが検討会の主であり、研修ごとに切り分けられた形で動いてきたが、今後を見通したときに、国からも言われているとおり、研修の連続性が大きなキーワードになる。 ・その上で非常に大きな課題となるのは、検討会委員ではない協力者の方に労を担っていただいている。 ・検討会は何をする場なのかを今一度共有化できるようにしたい。 ・研修を作ることが検討会の主眼になっているが、全体を見渡す人が少なくなっているのではないか。 ・新しいカリキュラムができた今の時点で全体を見渡すことを共通事項として継続するべきではないか。 ・課題を共有化して解決に向けて動くことが検討会としてやるべき仕事ではないかといった話があった。 ・今までは研修を作るところに重きがあり、各研修グループで話し合うことに多く時間を割いてきたが、今日以降の会議では全体で意見を交換することを中心にやっていきたい。 ・非常に長い時間話をしたが私のことばで言うとこのような簡単なことになって
-------	--

	<p>しまう。各リーダーからもフォローという形で一言お願いしたい。</p>
杉田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・自分が検討委員として関わらせていただく中で、年々負担は増えている気がする。 ・特に今年度は、プログラムはできているはずなのに修正があり、初任者研修検討チームだけれども、主任研修も現任研修も演習を回していく立場でもあり、それに精一杯で全体を見渡すことができていると考えていた。検討会の場で皆さんと協議できたらありがたい。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身のことでいうと4年前に検討会に入ったときから新カリキュラムになり、主任研修や演習指導者養成研修ができ、実習が入ってきて、新しい内容が加わり、状況が大きく変わる中で、最初の検討会と今の検討会の役割も変わってくると思う。 ・協力者問題では、10名の現任研修検討チームの中で、半分の5名は協力者という形。計算したところ、昨年3月から今年5月まで毎月計12回の集まりがあったので、時給2,000円とすると48万円、2,500円だと60万円になる。それが無報酬の中で、特に協力者に関しては事業所の協力があつたり、その方のボランティアなどところに任せて研修づくりが成り立っているところは、大きな課題と思っている。 ・また、現任研修の地域実習に主任相談支援専門員をどう絡めていくかという課題も検討会の中で議論していければと思う。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・もともと全体で色々議論をしていた検討会が、部会形式に変わったのが、自分の記憶だと現任研修が新カリキュラムに切り替わって、相談支援専門員像をそこに重ねて具体的に作っていかうというタイミングだったと思う。 ・チームごとにやっていかないと具体的な企画が煮詰まらないし、主任研修や演習指導者養成研修といった企画しなければならぬものが増えた中、チーム制というのはうまくはまったと思う。 ・ただそれが故に、全体が見えづらくなってきているところはある。 ・具体的にチームで上がっている課題が他のチームでも共通の課題なのかといったことが、検証できるかというのではないか。 ・例えば先ほどの現任研修チームの協力員の話では、中島さんは時間とお金の換算でお話されていたが、それ以上に、特に企画を考えた協力者の方はもう責任重大というか、研修がうまく回っているかどうかもちょうと検証して、少しでもほころびが見つかりそうだったら修正して、みたい。 ・他のファシリテーターの方は自分の担当の日程が終わればそれで終わりかもしれないが、多分企画した協力者の方は研修の頭から終わりまでずっと張り詰めた何かを持ちながらやっていかなきゃならないのだろうなと思うと、本当に課題としてはすごく重いものがあると思う。 ・同様のことが主任研修でも、初任者研修でも、演習指導者養成研修でも新しい協力者を追加する話があつたが、その人たちもそうになってしまうのかということ

	<p>ころを確認して、仮にそういう状況が続くのに無償はどうなのかということであれば具体的な対応を考えていかなければならない。それは多分この検討会でなければできないことではないかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 現任研修は本当にそうだったし、初任者研修もそうかもしれないが、研修のたびにファシリテーターの確保に東京都の方たちが奔走している状況がある。一方で、現任研修や初任者研修のチームから見て、主任研修修了者はファシリテーターをやってくれないのかといった意見は届けたほうがいいのかとか、中だけでは限界だということであれば、部分的に外に出して行くことを考えていく必要もあるかもしれない。 ・ そういうことを考えるのもチーム別だと難しいので、全体の中で話を詰めていくことではないか。全体を見渡す、全体を見渡す中で部分を協議することをこの検討会の中でやっていく必要があるのではないかと思う。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ それぞれの課題を共有化して連続性を考えていくことは大事だと思う。一方で、人の循環も必要と考えていて、ファシリテーターには新しい人が少しずつ入ってきて、何回かファシリテーターを学んだ方がメインファシリテーターになったり、研修企画に入ってきて協力者になったり、検討会委員になったりと広がってくるけれども、何年か協力者や検討会のようなコアメンバーになった人たちが、連続性を大事にしながら循環して、新たにコアメンバーになっていく人たちを作っていくと人も育たないし、地域の体制づくりというところにも広がっていくかと思う。 ・ 私たちは、研修メーカーのようになっていて、この人がいないともうこの研修を理解している人がいないし、説明できないからという風になっているが、そこから少し離れて色々な人が経験をしながら複数の人が回していけるようにできると個々の負担も減るし、次の人に渡していける。 ・ 新しいお二人の方にお声かけをしたが、前任の方が3年間かけて引継ぐことをやってくださったので、こちらとしても3年ぐらいかけて引き継いでいくイメージを持っている。研修メーカーにならず、お二人には過度な負担にならない未来があるといいなと思っているところ。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・ もちろん検討会委員のご尽力もあってのことだが、協力してくださる方の力なくして東京都の相談支援研修はない。障害領域の人材自体がなかなか集まらないことも相まって、研修のあり方はどういう風に持続できるのかということを実際に考えていかないとまずい段階に来ている。課題を共有しながら皆様のお知恵を拝借して、今の検討会委員の皆様が永続的にいることはあり得ないので、どういう形で引継ぎができていくのかということを継続的に議論させていただきたい。 ・ 委員の方々からご意見を頂戴したいと思っている。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎回このことばかりで本当に申し訳ないが、ついていくのに必死。私から全体を通しての課題というのは思いつかないが、C I L関係のメンバーがいること

	<p>の意味をいつも考えながら参加させてもらっていて、一方でやはり体力的に辛い。福祉専門職という部分の専門度合いがどんどん難しくなっている中で、当事者性を担保するために必死で食らいついている。当事者の人材も少なくなっていて、それはある意味C I L業界にいても一般社会で働ける身体障害の人たちが増えたということで、とてもいいことでもあるけれど、これからのC I Lを考えると、意思決定支援とか知的障害の人たちとか重複の人たちとか発達の人たちの支援が増えているのを感じながらやっている中で、自分たちの後継者をどこに見つけていったらいいのかというのを感じながら出席してきた。</p>
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 率直な意見だと思う。体力面のきつさというのは、拘束されることもあるのか。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> オンラインになったことで少し楽になった部分は確かにある。当事者側の意見は感じやすいが、一方で自分の中で専門家なのか当事者なのか、ピアサポーター加算ができてピアサポーターという存在が改めて見えてきたときに、障害福祉全体の中の専門家の中に当事者がいるというのはどのくらいの知識と経験量が必要なのか。みなさんと同じようにやろうと思うと体力的に辛いなどやっばり感じてしまう。フットワークの部分とか。 1個なら頑張れそうな気がするが、複数の色々なことをやっていかれている中で、把握をするのに情報があって今この議論がされているというところを考えると、ぼーっとしていたら力になれないと改めて感じている。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 当事者の方が検討会の中に入ってください、あるいは研修に関わっているというところに東京都の伝統的な意義があると思っている。全国的に発信していく意味を持っていることが東京都として非常に大きいと私は思っている。今のようないきなり率直なご意見を遠慮なく言っていただければと思う。 制度自体も非常に複雑化高度化している中での相談支援のあり方、障害領域での相談支援のあり方が複雑になっていることは確か。障害領域にだけでなく色々な物をうまく組み合わせていかなければならない状況になっている中での専門性って一体なんなんだ、障害領域の専門性って一体なんなんだということは問われていかなければならないと思う。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> これまでも自分としてすごく気になっていたのが、これから先ここにいらっしゃる主要なメンバー、今の研修を作ってくださいってきた方々とか、今動いてくださっている方々とか、ごそっといなくなった後、この研修が果たしてどうなっていくのかということ。 今後の継続ということを考えていくと、研修を考えていく方や、スライドの中身をいっぱい作ってくださいの方とか、得意不得意があるかと思いますがけれども、そういうことができる人を育てていかななくてははいけないが、育てていけるのかどうかという懸念もある。 そういう人達に対する対価も、金銭的な負担も考えていく必要がある。

	<ul style="list-style-type: none"> ・研修自体も途中でオンラインに切り替わってしまった現任研修も、もともと「集まらないと難しいよね」という前提で研修を組んでしまっていると思う。これからの時代を考えると完全にオンラインでやるということも想定しなきゃいけないんだなということをつくづく今回は感じた。 ・中にはそれぞれの研修会場に来ることが難しい方もいらっしゃる、これまでもご苦労されて通って来られていたと思う。そういう負担を考えると、オンラインや E ラーニングといった新しい仕組みを使いながら研修を作ることも大事なのかなと思った。 ・先ほど委員長も大学はちゃんとマニュアルを作ってもらっちゃるということでしたけれども、まだまだ僕たちは Microsoft Teams に慣れていないのと、東京都はセキュリティ的に Microsoft Teams を使っているが使い勝手はよくなかったりするので、業者に頼んでセキュリティをしっかりといただいた上で Zoom を使うことができるのかとか、どんな手段でどんなことができるのかということも含めて研修全体のあり方を考えていけるといいのかなと感じた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに、大学も対面が主じゃないということを言い出している時代になった。色々なことで大きな変化が訪れている時代の中で、対応していかないといけないと思う。後ほどの合理的配慮のところでもご意見頂戴できればと思う。 ・研修講師の養成と確保について、かなりご意見頂戴できたので、これらをもとに、もう少し踏み込んだところでの人材の確保等等について検討を続けて参りたい。

(3) 専門コース別研修の企画案について

佐藤委員長	・専門コース別研修の企画案について、事務局から説明をお願いしたい。
事務局	(資料 1 に沿って説明)
佐藤委員長	・藤田委員、補足があればお願いしたい。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、専門コース別研修の担当をさせていただいているが、専門的にこの分野のことについて研究をしているわけではないので、あくまで当事者として当事者の視点で関わらせていただき、皆さんの話を聞いた上で次につなげていくといったところを大事にしたい。 ・これまで東京都が大事にしてきた本人主体という考え方を皆さんには考えていただきたいと思っている。 ・先ほどのご意見にもあったように、だんだん専門的な用語も増えてきて難しくなる研修が増えているのが実情の中で、事務局とも協議し、なるべく現場はどうだろうかとか、現場で見たときに実際はこうなだけど、そうは言うんだけど、みたいなどころを受けていただく皆さんと共感できるような研修であってほしいということで、このような構成になった。 ・皆さんからご意見をいただいてより良い研修にできたらと思っている。

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修はやはり共感が大事だと、本当に心の底から思う。 ・皆様のところでもおそらく意思決定について話題になるかと思う。私も楽しみな研修だなと思っており、ご拝聴できたらと思う。 ・この案でご承認いただけるということでよろしいか。 (承認) ・では、承認ということにさせていただきたい。
-------	---

(4) 今年度の厚生労働省主催の相談支援従事者指導者養成研修について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度の厚生労働省主催の相談支援従事者指導者養成研修について参考資料のとおり実施要綱が8月10日に示された。受講対象者については、「コース別プログラムに係る受講者選定について」という別添資料も合わせて追加された。 ・検討会においてこの受講対象者像について改めて確認をさせていただくとともに東京都から受講をしていただく方についてご意見を頂戴したい。 ・国研修受講の体制についても、やはり人材養成にリンクしてくる話題かと思っている。今回どういう方をお願いをするのかということはもちろん、今後も視野に入れながらご意見を頂戴したい。 ・事務局から補足をお願いしたい。
事務局	<p>(資料 説明)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要綱にもあるとおり8月27日が締め切り。急いでお願いすることになるので、どういった方に受講していただくか良いか具体的なご意見をいただきたいことと、来年度以降の方向性についてもご意見をいただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・コースとしては、ケアマネジメント基礎コース、「地域づくり」コース、人材育成コース。コース別の受講者選定について条件が提示されているところも課題になろうかと思う。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・このような形での人選を想定していなかった。私の中では来年度に向けて新しい方一人と今担当している分野で私たちの誰かが一人参加するのがいいと思っていた。 ・地域づくりや人材育成のところは基幹相談支援センターの方が参加すべき部分ではないかなと思っている。
藤井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・個人的には参加した国研修は相当前で今の検討会や各チームのメンバーの方々もおそらくリニューアルする前に参加した方がほとんどなので、受けてみたいと思うところだが、新しい方を育てるということで考えれば、受けたことがない方に入っていただくとありがたい。
堤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネジメント基礎コースは新しい方、初任者研修の検討チーム協力者の方でもいいが、「地域づくり」コース、人材育成コースになってくると経験者でないと難しいかなと思っている。「地域づくり」コースは先ほど北川さんのご意見にもあったように基幹相談支援センターの方とか、あるいは主任相談支援専門

	員の方なのかと。人材育成コースは演習指導者養成研修の方たち、あるいはこれから演習指導者養成研修を担ってほしい方たちみたいなイメージと思った。
池田委員	<ul style="list-style-type: none"> 要綱の中に連続性を保つために研修に前年度参加された方っていう文言が入っているのですが、人材育成なのか地域づくりなのかどちらかには昨年参加された方が参加していただけるといいかと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 最終的な決定は東京都の事務局の方でお願いをすることになるかと思うが、こちらの意見を検討会の意見として東京都の方に伝えさせていただくことで良いか。 おそらくまた皆様のところに人選のご協力をお願いなどがいくかと思うが、ご協力いただきたい。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> 東京都の各チームの協力者は、自分の理解だと国研修を受講した人だったと思う。今後の研修の担い手や講師の循環を考えると、今回の要綱にもあらかじめ過去の研修の内容を熟知する取り組みができれば対象者になると書かれてあるので、国研修を受講してない今後の人材候補のところまで少し視野を広げていいのではないかと思う。
花形委員	<ul style="list-style-type: none"> もし昨年度のように参加者を増やせるのであれば、今までのように熟知している方と新しい方がコンビで参加できるといいと思う。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> それも一つのアイデアかと思う。いただいたご意見を踏まえつつ、東京都に推薦をお願いするという形で進めさせていただきたい。

(5) 受講希望者への合理的配慮について

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> 是非この検討会でご意見を頂戴したいという事務局からの課題提起となる。詳しい説明を事務局の方からお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 資料を補足しながらの説明させていただきたい。 この間、相談支援研修につきましては、申込書に受講希望者に配慮してほしいことを記入していただき準備してきた。例えば、視覚障害者の方には点字資料の準備、聴覚障害者の方には手話通訳の配置等 配慮を希望する受講者の了解を得た上で、演習場面ではファシリテーターと相談しながら、時にはグループメンバーの協力も得つつ、ホワイトボードの記入等も受講しやすい環境づくりに取り組んできた。 加えて、初任者研修に当事者サポーターの方が参加される場合は、グループワークに入りやすいように、初回は必ず事務局が説明に伺ってお互いを知ってから参加していただくような対応をしてきた。 受講者に話を戻すが、初任者研修と現任研修の受講にあたっては、この間、様々な障害を理由にした受講の辞退や受講することの身体的・精神的負担感の声が上がっている。 理由として、演習日数の増加による負担、事前課題や実習等による負担、より

	<p>専門的・複雑化した演習内容に対する負担、グループワークにおける役割分担への負担ということが挙げられるかと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受講者が希望する配慮の内容も多様化しており、グループワークを進めるにあたっては個別性に応じた配慮や工夫が必要になっている。 ・また、障害のあることを伝えたくない、知られたくないという方もあり、受講中や受講後に「実は私こういう障害があり、今回の研修はこういうところが辛いです」といった話をされることがある。 ・視覚障害の方には点字資料、聴覚障害の方には手話通訳の配置、ALSの方にはヘルパーを介してグループワークに参加していただいたが、こなしていくのが難しいと感じることがある。ALSの方は習熟したヘルパー3人と参加しなんとか時間内に納めていたが、誰かを介在しての参加には、時間が足りない状況がある。 ・今後については、個別に対応策を講じるだけでなく、研修そのものを誰もが安心して参加できる内容や方法に見直す必要性を感じている。 ・体力面、情報取得、コミュニケーション方法等に配慮が必要な受講者への対応についてご意見をいただきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修のあり方の中で、合理的配慮は外せない事項。受講者にきちんと参加していただくために、委員の皆様の専門的な見地も含めてお知恵を拝借したい。 ・配慮欄に書けない方もいらっしゃるというところで、演習の組み方も課題になってくるかと思う。
堤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・思う部分がたくさんあるので、率直に話したい。 ・私が特に初任者研修の検討に関わってきたのは、障害を持った当事者が相談支援専門員として関わっていけること、関わり続けられるということを目指したかったから。しかし、最近難しくなっている。 ・実は、去年の初任者研修の検討では挫折感を味わった。 ・以前は5ピクチャーズの5つのコマと計画を結びつけて、ここに書けば計画ができ上がるという形になっており、私の表現では、マニュアル的でわかりやすかったと思う。 ・私は5ピクチャーズを5つのステップという形でもう少しわかりやすくできないかという提案をした。 ・しかし、去年の検討の中で、5ピクチャーズを計画と結びつけること自体もおかしいのではないかと、5ピクチャーズをきちんと考えられれば、計画も作れるはずということになった。 ・マニュアル的な発想と専門的発想は違うと思っており、障害を持った人が皆専門的な発想が難しいという意味ではないが、簡略化したかったけれど、逆に難しくしてしまい、多くの障害を持った人にとっては、内容の部分ですごくハードルが高くなった。 ・ピアサポーター制度ができたことで、障害を持った人はピアサポーターになっ

	<p>て、相談支援専門員は専門家になるっていう二極分化の方向に行くのかと思ったりもした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私の理想としては、相談支援専門員、特に当事者の相談支援専門員は、当事者として寄り添うことができ、計画やモニタリングの書類を作れる、その程度までできれば相談支援専門員として立っていていいのではないか。現任研修まで受けるのがきつかったら、初任者研修を繰り返し繰り返し受けながら寄り添える相談支援専門員になればいいのではないかという思いがずっとあったが、その初任者研修すらハードルが高くなった。 ・サポーターの人たちが一緒に会場で研修に参加するとしたら、多分サポーターの人たちも難しくついていけないだろう。 ・先ほどの ALS や聴覚障害等で間に通訳を介する場合、通訳者が内容を理解できなかったら通訳できない訳で、そういう意味でもハードルが高い。 ・東京都として相談支援専門員を障害者が、当事者がやることに、どのあたりまでの理念を持たせるのかで違ってくる。誰もが安心して参加できる内容を考えたときに、今の初任者研修の内容自体を見直していく必要があるのかという思いが強くなる。 ・演習の方法については、一昨年、長時間の研修は大変と C I L の人たちが訴えて、厚生労働省主催の「質の向上に向けた検討会」で合理的配慮のことも話し合われた。 ・その結果、長い演習をまとめて受けなくても、2年がかりで受講することや、演習の後半部分は集合型の会場に集まらなくても地元の相談支援事業所や基幹相談支援センターでの履修も認めるといふいくつかの方法論が出ている。こういった方法論を選択肢の中に入れていくことで体力的に少しは緩和されるのではないか。 ・幸か不幸か去年から感染症の影響を受け、ほとんど毎週あった初任者研修検討チームの打ち合わせは、集合型で行われていたら絶対についていけなかったが、オンラインだから関わってきた。 ・現任研修もオンラインになって、本当に皆さんご苦労されているのでこんなことを言って申し訳ないが、私は通わないで済むということにすごくホッとした。ストレスが半減した。 ・会場に行くのは、事業所が負担していることにはなるが、泊まりがけかタクシーを使うかという方法になり、負担感はとても大きい。 ・具体的に提案したかったのは、研修の中身のハードルが高くなり、当事者の相談員に何を求めるのか、東京都はピアサポーターと二分化する方向性を取るのかということと、合理的配慮の方法論は国でも話はされてきたという情報提供の2点になる。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・国が提示した方法も含めて、合理的配慮は色々な方法を考えなければいけないと思う。大学でも通常の形で授業を受けられない学生に対する配慮が色々な形

	<p>で行われているので、方法をこれから検討していくことが重要</p> <ul style="list-style-type: none"> ・堤さんからの提起は身体障害の当事者の方だけでなく、精神障害の当事者だったり、発達障害の当事者だったりから言われてくる可能性もある。 ・今ここで答えを出すのではなく、引き続きの検討事項ということで良いか。
蛭川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮というところで、聴覚障害の人が研修に参加することになったら相当厳しいだろうとずっと感じていた。 ・聴覚障害のスタッフがいて、この数年情報保障の徹底についてみんなで考えていて、どうやって聞こえない人に私たちの会話を伝えていくのかということに取り組んでいる中で一番感じたのは、聴覚障害のある人とコミュニケーションするときは、喋れる人同士の会話の情報量を半分にするか、もしくは時間を倍にするかにしない。同じができないということ。 ・最初、私自身もすごくストレスだった。ダラダラしゃべりがちなところをコンパクトにしてノートテイカーに的確に文字で打ってもらうとか、ことばをかぶせてはいけない等。すぐにはできない。 ・議論の場や意見交換では、特にことばにことばをかぶせがちなので、グループワークに聴覚障害の人がいて通訳がいるときには、ファシリテーターは会話の流れを届けることも考えないといけない。やり取りの量を他のグループと同じ活発度でやったら聴覚障害の受講者には伝わらない、持って帰れるものがその人にとって半分という状況になると思う。 ・障害を持っている相談支援専門員の専門性も考えた全体像、初任者研修・現任研修・主任研修のあり方であってほしい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・研修の連続性をステップと考えるのではなく、初任者研修・現任研修・主任研修それぞれのあり方を考える。演習でことばをわかりやすく伝えることの難しさは確かにあると思う。
藤田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮に関しては、ファシリテーターの障害当事者にとっても必要 ・私も会場が茗荷谷のときは、朝6時に介助者を入れて、準備をして6時40分の電車に乗って8時半に着いてということをしていた。あまりも辛くなって2日間の演習は泊まりにすると、私の介助者もいるので、二人分の宿泊費がかかり、演習の報酬と宿泊費でトントンで、事業所に負担してもらって、ほとんど報酬がない状態だった。 ・演習の日数が増えたことによって、宿泊が2回になると、それができる介助者がいなくなったりする。日数が増えた段階で、なるべく近い会場を選ばせてもらったりしたが、そういった弊害も出てくると思う。 ・グループワークに受講者として参加する場合には、車椅子であること、手が利かないということで、自分ができる役割は進行役しかない。進行以外の役割ができない後ろめたさとか、周りの方への思いも感じていたりする。 ・ファシリテーターのときも、他のグループはファシリテーターの皆さんが積極的にホワイトボードへの記入もされているが、私はできない心苦しさも感じた

	<p>りしていた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある意味、コロナによって新しい方法が確立されてきて、Microsoft Teams や Zoom を使うことで、少し障害がなくなるというか、今まで物理的に感じていた障害がなくなってみなさんと同じ土俵に立てる嬉しさもある。こういった新しい方法が浸透していくことも、移動するストレスがなくなることも我々にとってはすごく助かることだと思っている。 ・演習の内容が複雑化したことに関連して、視覚障害の方が、昔はフリーハンドで演習の模造紙を作っていたのが、決められた枠に当てはめていかななくてはならないことの理解のしにくさを、我々もフォローできずに研修に参加できなくなってしまったということがあった。 ・グループのファシリテーターは、特にラウンドで回らなくてはならない場合に、車椅子では近づきにくかったり、確認しにくかったりということもあり、新しい方法ではやりやすくなったりというメリットも出てきたりする。 ・合理的配慮を考えると、違うツールを使いながらできる合理的配慮もあるということも検討の中で確認をしていただくといいと感じた。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・堤さん、蛭川さん、藤田さんがおっしゃられたことは、研修の受け手の多くが感じてらっしゃる部分かと思って伺った。どういう方法が適しているのかということも模索していかなくてはいけない。 ・最新機器を使うのは行政機関が一番遅いと言われている課題もあるが、合理的配慮を考えたときには行政機関としても一歩進んでいかなくてはならないと思う。
中島委員	<ul style="list-style-type: none"> ・堤さんがおっしゃっていたが、この議題をいただいたときに、私も平成31年4月10日の相談支援の質の向上に向けた検討会の第6回から9回の議論のとりまとめを見直した。8ページに研修参加にかかる配慮について都道府県の議論が例示されており、検討するところかと思う。 ・具体的には録画による講義や24ヶ月の履修期間の延長が示されている。 ・もう一つは、難しかったという受講者の声については、具体的な状況をある程度共有しないと、我がこととして受け取りにくいし、検討しづらい。個人情報のあることあるが、どこまで共有ができるかということも議論の深め方に関係してくるかと思う。 ・最後に、質の向上の議論の中でも合理的配慮の部分でも書かれているが、実践的な内容の履修が重要ということで、研修が実践者に向けたものになってきている。障害による受講の難しさと実践者ではないことによる難しさや精神的負担は、しっかり分けて考えないといけない。 ・あり方や研修の質を守っていくためには、現任研修については、実践者に能力的なところで向上していただきたい、質を向上していただくことで地域の障害者の方の暮らしがよくなっていくというところは基本として維持していくべきと思う。

花形委員	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の国研修で東大の熊谷先生が合理的配慮のことを話されている。 ・合理的配慮と基礎的環境整備の話がされていて、基礎的環境整備というのは研修をやるときに絶対に整備しておかなくてはいけないことなので、きちんと考えておかなくてはいけないとのこと。課題が合理的配慮と基礎的環境整備のどちらに入る話なのかを整理しなければならないのではないかと思います。 ・昨年度の国研修では、各県の新カリキュラムの実施状況も話されており、全てオンラインで行ったというところがいくつかあったが、東京との規模が違いすぎると感じた。圏域単位で説明会を開いて会場も圏域単位で実習をしたり、距離のところの配慮に取り組んだということだったが、20人とか30人という規模であった。 ・東京都は人も規模が違うし、今も会場をいくつか用意してという配慮はしていると思うが、何百人という人たちの合理的配慮を考えていくとなると受講人数や人口規模の違いもあるので、東京都の規模でできることは何かということを考えないとならない。
北川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・合理的配慮とは違うが、今回800人の規模で現任研修を行う困難性があり、本当に受講が必要な人数は何人かというところが必要ではないかと思う。 ・相談支援専門員が3割しか動いていないという実情もある中で、本当にきちんと相談支援専門員として動く人がどれだけいて、だから質の担保をしていかななくてはならないというところに着目しないと、合理的配慮や本当に受けたい人たちに対して、きちんと目を向けることが薄れるのではないかと思います。 ・違う話題になってしまうが、本来の相談支援専門員が東京都として何人必要でというところを数値的に組み立てる必要があるのではないかと。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・エビデンスを持って研修を展開するという話かと思う。合理的配慮を一つテーマとして挙げさせていただいたが、引き続き検討の材料とさせていただきたい。 ・今日いただいたご意見は事務局の方でまとめていただき、整理をしていく必要があるかと思う。事務局の方はいかがか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・いただいたご意見を材料に整理をして、次につないでいきたい。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・是非今後ともご意見をお願いしたい。
(6) その他	
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・その他、ご意見があればお願いしたい。
吉澤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今日の話の中で講師養成や人材育成について、今後もお題にしていくということだったが、これは検討会のあり方も含めてという理解で良いか。 ・例えば、今回現任研修をオンラインに切り替えるにあたり、自分が担当していたチームアプローチ演習は、グループワークをするときに通常アイスブレイクをして場づくりをしてという進め方をして入るところも、あいうえお順に発表しましょうという機械的な進め方に切り替えた。場づくりという部分を端折ったけれども研修としては成立するかもしれないということで、この変更は現任

	<p>研修チームで検討したわけではなく自分の独断でやってしまった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こういうことを検討会イコール研修企画メンバーとしてやり続けるのかということはずっと乗っかってくることかと思う。 ・合理的配慮のことも研修をさらにカスタマイズしていくというところに重ねて考えていくと、この検討会の負担感はさらに高まると感じた。 ・講師養成というところと重ねて、検討会の委員はどういう役割、立ち回りをするのか、そして研修の企画はどこが担うのかということも今日の場では答えはでないと思うが、引き続きそこを重ねたお題として継続していただけると良いかと思った。
佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・吉澤委員がおっしゃっていただいたことはまさに今後の議論の展開の柱かと思う。人材養成のところでも話し合ったところを、また検討会に持っていきながら、全体共有を図っていく必要がある。 ・話題提供も含めて皆様のご意見を聴取することがこの検討会の役割として求められているということで、方針転換を図ろうということなので、是非ともご協力をお願いしたい。 ・事務局から今後の日程等の説明をお願いしたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の議事録についてはホームページに公開をすることになる。 ・資料についてこの場で公開するしないを決めることができるが、資料2は整理されたものではないので、公開はしないということではいかがか。 (異議なし) ・次回の日程は11月12日(金曜日)、時間帯は午後3時から5時まで2時間とさせていただきたい。

6 閉会

佐藤委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の検討事項は全て終えることができたので、事務局に進行をお返ししたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回までに本日の議事を皆様に確認していただきホームページに掲載できるように進めていきたい。 ・また、各研修をこれから次々と進めていくことになるので、引き続きご協力の方をお願いしたい。